

・・・雨でも休まず、242回、243回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

定例活動1、8月3日(第一日曜日):小原本陣の森、担い手育成・技術向上
参加費400円。沢でソーメン流し

・協働活動 8月10日(第二日曜日):小原本陣尾根、孫山景観ルート開削調査
午後:小原宿活性化推進会議、小原集会場に於いて。

定例活動2、8月17日(第三日曜日):若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
参加費400円、主食持参、自分の食器(副食を作るので)

- ・初参加:9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
- ・服装:汚れても良い服装、着替え、白っぽい長袖(スズメ蜂対策)、滑らない足元
- ・持参品:成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、
- ・注意:危険管理・救急体制他、会として可能な限りの体制を敷いていますが事故・怪我は「自己責任」です。

自治体との協働

行政(国・都道府県・市町村)はタテの分権に対して、行政と市民の「協働」は地域・市民社会(NPOや市民セクター)への水平の分権である。行政と市民の協働事業は、公共公益的領域を行政と市民が、どのように役割分担するか。これは言わば“行政改革の新しい試み”と言える。

相模原市・市民活動推進課との話し合いが始まった。第一回目は、お互いの考えているところを紹介し合うという感じだったが、「何を、どのように協働するか」と言うかと点で、互いの認識の差が目立った。行政の要求からは「NPOなら安上がり」といったNPOの下請化気配を感じた。また、縦割りシステム特有の視野の狭い領域での協働を期待しているようにみえた。そしてまた、NPOと行政の合意形成不調や、NPOの思い込み過ぎ、自治体実務担当者の負担増加への気配も感じた。

「官」から「民」への分権というとき、行政は「民を下請け」として想定していないか。「民=NPO、市民セクター」活動は公共・公益領域の官の手の届かない部分を埋め合わせる活動であるから、行政は民を下請けと見てはいけない。NPO、市民セクターが公益的領域の何を補完するのか、これを決めるのは行政でなく市民側である。NPOセクターは、行政領域の安上がりな民営化意識に強く「NO」と発信しなければならない。

「真の協働」には何が必要か。その実現のためには、行政とNPO双方が共通認識を持つための協働推進の取組の場の形成が必要であり、「協働コーディネーター」のようなものが育つ必要がある。相模原市には、協働事業推進委員会というのがあるから、これが「協働コーディネーター」になれるのではないか。

小原本陣の森・活動報告： 7月 6日（第一日曜日）

報告 ForestNova 所属 1年 神宮 理沙

7月に入り、森の中にもだいぶ暑く感じる一日でした。この日は「生命の森宣言」の方が参加していて、下草刈りを行っていました。

作業場所まで経路を登っていると、山の斜面に前回来た時にはなかった小さな泡のかたまりがたくさんありました。アワフキという虫が中に入っているそうです。

Forest Nova はチルホールの使い方を教わる班と経路作りを行う班に分かれ、午前と午後で班を入れ替えて全員がチルホールの使い方を佐々木さんから習いました。「木の下に立って、その木が見てきたものを見る。木も生き物。だから切った後はちゃんと使ってあげないといけない。」と言われ、木を切ることはどういうことか、切った後はどうするのかを、ちゃんと考えて作業していかなければいけないのだなと感じました。

今回切ったのは割と細い木だったのですが、それでも木は踏ん張ってチルホールを動かすのは重くなりました。チルホールを使って倒したのは午前一本、午後一本だったのですが、経路作りの材が足りなくなったので途中でチェーンソーだけで伐倒したら掛り木してしまい、二人がかりで押して倒していました。

掛り木してからチルホールをかけることはできないので、伐倒前に少し時間をかけてでも最初からチルホールを使う方が、実は効率がよくて安全だと教えてもらいました。



3時ごろに作業を切り上げ、下まで降りて反省会を行って活動が終了しました。

.....

文中の佐々木さんという会員は、3年ほど前から当会活動に参加しているが実に博学で、特に昆虫については、いつの間にやら「ファール・佐々木」という名になってしまったほどである。（写真のチルホール・牽引機を扱っているのがファール・佐々木）

また、学生の指導は手取り足取り、懇切丁寧で彼らの信頼を集めている。当会の活動が常に明るく前向きなのは、ファール佐々木率いる学生集団が所以である（石村記）。

母校（英国：オックスフォード大学・日本産業研究所）の図書館で日本の森林状況の参考書を読み、インターネットで調べ。約2ヵ月間の計画で現地調査のため来日した。森林NPOでは、FSC（国際NGO：森林管理協会・本部・ドイツ・ボン市）のホームページで紹介されていた“NPO緑のダム北相模：若柳嵐山の森”を訪問した。今回の来日の目的は、私が専攻する「日本学・森林政策」を論文提出するためです。



若柳嵐山での最初の強烈な印象は、70数名を越す森林ボランティアの方々の姿であった。あらゆる階層（高校生・大学生・社会人・老若男女）の人々が参加していることが第一、そして、この森のそれぞれの場所・現場で多様な活動をしていることが第二。

また、朝礼・（お昼休み）・終礼・・・、参加者全員が集まり、各活動班ごとの今日一日の成果発表と情報の共有システム、そして、お互いがお互いを支え合う集団意識の高さに驚かされました。

もちろん、参加者の知識・経験・技術の差はあります。しかし、それぞれの方々が自分自身の意志で森林の保全再生に貢献している姿は素晴らしいものでした。

この日、静岡から新しくNPOを立ち上げた環境保護団体が視察にきていました。また、来年を目標に独立して森林活動を目指す「生命の森宣言・東京」という団体が、現場研修を受けていました。

「NPO緑のダム北相模」の活動は現在、点の規模の活動かも知れませんが、その影響力は地球規模への発展途上だと言っても大げさではないでしょう。少なくとも、若柳嵐山の森のある相模川の上流・中流・下流をつないで、約40の団体とネットワークを組んでいることから、そう感じました。石村さんは「1人の専門家より99%の普通人」と話していました。

京都議定書では日本は、2012年までに330万haの間伐をしなければならないと言っています。これを実現するためには、専門家だけでなく全国民の参加が必要です。緑のダム北相模の活動に、そのひな形を見ました。森林を全ての生物の遺産として、命の源として保護できていきますように・・・・・・。

* 私は日本語が十分ではありません。日本人の友人に書き直してもらいましたのをお許しください。

.....
Miss, アリスから突然、日本の森林を知りたいと連絡があった。そこで、森林地主・素材生産



者・森林組合・工務店・神奈川と山梨の森林課、林野庁企画課・経営課などを片っ端から紹介した。アリスは、立川の友人宅に寄宿して2カ月の予定で、毎日、精力的に訪問して回っているそうだ。日本語は片言だが、漢字を良く知っており、漢字筆談で十分な情報を集めている。

驚いたのは、初面会時に、両手を畳について正座して「よろしく申し上げます」と挨拶を受け時だ。何でも、碧巖録を読み座禅を組んでいるということである。

この20日の活動日の参加者は、・・・74名。(石村記)

報告：望星の森（若柳嵐山の森）

報告 東海大付属望星高校 教諭 宮村連理

先に科学技術振興機構のSPP(サイエンスパートナーシッププロジェクト)に申請書を提出したと報告しました。決定通知が来たことを報告します。

「望星の森」ではトチノキを中心に植樹してきました。さらに今春には杉の植樹も行い、作業は順調に進んでいます。しかし、参加する生徒は、作業そのものが楽しい、やりがいがある、という気持ちで参加するものが多く、活動の意味、目的などの理解が不足しているのではないかと懸念がありました。そこで、本事業を利用し、さらなる森林問題の科学的な理解を進めることになりました。



本事業では先ず、活動前に森林問題の科学的理解を深めることを目的としています。その際、放送教育コース(月2回登校する通信コースで、週4回登校するのは平日教育コース)で利用しているe-Learningシステムを利用します。インターネット上でスライドなどに連動する放送講座を生徒が聴取して、活動をまとめます。



このインターネットコンテンツには本会から、森林の基本問題・公益性を石村さん、整備方法を川田さん、森林の多様性を斎藤さんに話して頂く予定です。更に、日本大学の桜井尚武先生には森林の生態系について、東京農業大学の上原巖先生には“森の中で自分を見つめよう”を話して頂きます。

この講座は、本会のHPでも公開の予定です。ご期待下さい。

北相模の皆様、本日20日は大変、お暑い中、お疲れさまでした。

北鎌倉では、久しぶりの松ヶ丘文庫前の竹林平場での古材下ろし、斜面の草刈り、ケヤキが大きくなっているのに驚きました。但し、斜面の山みょうがの中にいた蜂に刺されて1名、早退されました。高台の竹林を吹き抜ける風の心地良かったこと、天然のクーラーの素晴らしさを満喫しながらの一日でした。

さて、8月は第四週の26日(火)のみの活動とします。活動内容は、下草刈りと竹林平場の整理、整頓、竹灰づくりです。北相模の皆さんも、お時間があればお越しください。では、この猛暑の中、がんばりすぎて熱中症にかからないよう、くれぐれもご注意ください。

桂北小学校4年生：7月3日(木): 緑のダム体験学校

指導 斎藤 憲弘

先月、総合学習でのホームページで「緑のダム」の活動を見つけた桂北小4年生から「森へ連れてって」とせがまれて、7月3日、「若柳嵐山の森」に案内した。本稿は、その様子。

報告

桂北小学校 教諭 植松

「先生、ぼくたちがメールをしたから、今日こうして歩けるんだね」や山を歩きながらある生徒がつぶやきました。4年生みんなでメールを送り、返信をいただいたことで始まった「緑のダム北相模」との交流。先日、斎藤さんに案内をして頂き、嵐山の森を散策してきました。

まず、服装や持ち物、蜂や蛇に遭遇したときの対処方法など、基本的な心得を教えて頂いたあと、森に入りました。しばらく行くと、木の上に設置された木箱が何箱かありました。それはムササビの巣で、中には間違いなく住んでいるとの事。ムササビさん、寝ていたところをごめんなさい。



また、しばらく登ると水がチョロチョロ斜面を流れているところがありました。みんなで触ってみると思ったよりも冷たい。これは森に雨が降り、ゆっくり地面に浸透し、澄んだ冷たい水となって流れ出てくるんだそうです。森が「緑のダム」と言われるゆえんですね。「小さな相模川だね」と誰かがいいました。

斎藤さんは、眼で見る、耳で聞く、手で触る、舌で味わう、においを嗅ぐ、五感をすべて使って、森の魅力を教えて頂きました。子供たちは以前、一度嵐山に登ったことはありますが、このように注意深く眼を向けると新たな発見がたくさんありました。「また、森に行きたい」「むささびみたい」さっそく、子供たちからそんな声が上がっていました。

児童の感想（一部）

- ・ 今日緑のダムの方に森を案内してもらいました。森のことがチョッと詳しくなって良かったです。ムササビがいるということなので、今度見てみたいです。
- ・ 今日緑のダムの人たちと嵐山の森に行きました。僕は初めて見たものが沢山ありました。源流の水はつめたかったです。ムササビは見れなくて残念でした。蜂も見られたし、イノシシの頭がい骨も見れて、凄くうれしかったです。
- ・ イノシシの骨を初めて見て、びっくりしてしまいました。こんなところにイノシシがいるなんて、初めて知りました。
- ・ 今日はムササビは見られなかったけれど、今度ムササビを見てみたいです。あと巣箱を自分で作ってみたいです。
- ・ 森の中に緑色のイクラみたいな植物を見つけて、凄く面白かったです。



この森：若柳嵐山の森、若者の森

毎回の参加者数は、60名～80名でほとんど参加数には変化がない。その半数は高校生・大学生で、小学生・中学生の参加は、臨時に受け入れることとしている。他の平均的な民間の森林ボランティア活動参加者は、15～20名前後と聞いているから、飛びぬけて多い参加かもしれない。4年前からの東海大付属望星高校は、“望星の森”と自分たちの森を作って居ついてしまった。学生は、麻布大学生が中心だったが今では、法政大・創価大・千葉大・日大、薬科大・関東学院大・千葉大、遠くは信州大からもやってくる。彼らは学生連合 Forest Nova と名づけて、“フォレスト・ノバの森”つくりを計画し始めた。かなり本気の森づくり計画である。私は、ここに森の明るい未来を感じ始めている（石村記）

B地点の施業について

私達 Forest Nova は、緑のダムの指導の下森林整備の実践練習を兼ねて、嵐山 B 地点の施業を行わせていただけることになりました。

Forest Nova は森と人の共助共生社会を実現するため、森についての様々な情報発信をしています。ただ、私達は情報発信をしていくだけでなく現場の施業も行っていくことで、机上で終わるのではない実践主義の団体として活動していきたいと考えています。

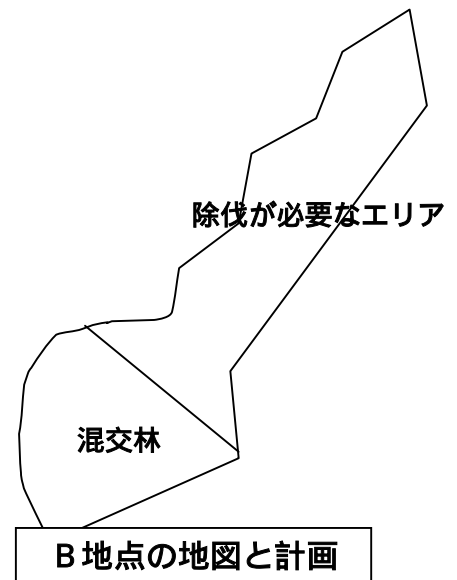
今回 B 地点の施業を行わせていただくにあたって、漠然と施業の実践練習をしているだけではいけないと考えた私達は、実践練習の他に「森と人の関係をより近くする(色々な人に森に興味を持ってもらい、好きになってもらう)」という目的を持って施業を行うことにしました。私達のイベント等に参加して B 地点に入った人達が、少しでも森に対して興味を持てる、好きになる森にしようということです。

人が森に興味を持つ入り口は何かと話し合ったとき、居心地の良い森、生き物のいる森、四季の感じられる森がそれにあたるのではないかと考えました。そのためには、今の B 地点のような針葉樹だけの森ではなく、広葉樹も多く生える混交林にする必要があります。実をつけ葉を落とす種が多い広葉樹は、生き物と呼ぶにも四季を感じるにも効果大だからです。

しかし、森林整備を行っていく以上、ただ入って楽しい森ばかり創っていくわけにはいきません。今の森は経済性を持つことを求められています。これは私達の団体理念である森と人の共助共生社会の実現にも必要不可欠な要素です。そこで私達は自分達で切り出した材を自分達なりに加工し、製品化して売り出すことも考えています。B 地点は傾斜が割りと急な上、5~10 年前に一度整備を受けてはいますが貧弱な樹が多く、今の日本の杉・檜林の見本のような状態になっています。ここで施業の練習をし、さらに切り出した細い材を有効活用していくことができれば、Forest Nova は緑のダムの親身な指導を受けずとも森林整備を完結できるイチ森林活動団体としての一步を踏み出すことができるでしょう。

先月の 20 日に行われた緑のダムの定例活動日では、事前のミーティングで話し合った B 地点の施業計画が実行可能なものかどうか確認して回りました。除伐の必要な樹が多いエリアもあれば立派な樹の立ち並ぶエリアもあり、ムササビまでいるという B 地点でしたが計画に大きな変更は無く施業に移せそうなのでホッとしています。施業計画はミーティングを続けながら、材の成長量のデータ等を使用して「次の整備を 年後に行う整備をする」といったような項目を検討しつつ詰めていく予定です。今後は緑のダムに指導していただきながら、植生調査や迷信という意見もある新月伐採の実験を行います。

私達 Forest Nova にここまでの配慮をして下さる緑のダムの方々には非常に感謝しています。しかし、いつまでも緑のダムの親切に甘えその個性を失ってしまうことのないよう、地道に活動の幅を広げていきたいと思えます。



何か手はないか・・・相模原市の森林

旧津久井四町を合併して22年度には、政令指定都市になる人口70数万人を擁する相模原市には都市隣接後背地に約2万ha(神奈川県森林の21%)の山林がある。前面には、神奈川・東京を合わせて人口約2000万人の木材マーケットがある。

森林資源は、何も建材だけではない。木質バイオマスエネルギー、木質繊維による衣料やラバー技術、炭化によるガスの吸着分解材、高性能技術による新素材の可能性もある、当会が取り組んでいる「緑のダム体験学校」では環境教育事業、甲州古道復活プロジェクトには、グリーンツーリズム事業の芽が出てきている。例えば、一種の寿司種でなくて盛り合わせの発想・・・、木質バイオマスエネルギーと観光農園を組み合わせることはできないか。後手より先手の森林整備をすれば、防災コストの削減、生産コストの小さい良材の生産が可能となりはしないか。

相模原市にはこれまで森林がなかったから、白紙に新しい森林の展望は描けないか。NPOの柔軟で迅速な行動力を生かす方法はないか。(石村)

参加者募集(8月4日・月):小規模林地の団地化(多野東部森林組合)

見学をする理由:旧津久井地区の森林は、急峻で地主一人当たりの森林所有面積が狭く林業を生業としていくには極めて難しい地理条件にある。何とか解決の方法はないかと国内認SGEC(Sustainable Green Ecosystem Council:緑の循環会議)の手法など調べているうちに群馬・藤岡の多野東部森林組合が14名の地主さんで71haの森林を団地化して機械化を可能にしたとの情報を得た。80ha、24名の地主さんからなる「小原本陣の森」に近似しているから視察する。

行程	6時30分	新宿・工学院大前集合
	10時00分	藤岡・多野東部森林組合 講義・昼食後
	13時00分	現地1視察(19年度施業地)
	14時30分	現地2視察(20年度施業地)
	15時30分	終了
	19時00分	新宿・解散

朝が早いので、遠方の参加者は、石村宅に前日から泊って頂いても良いです。
私たちは森林NPOは特有の嗅覚を持っていますからプロが思いつかない解決策を編み出せるかも知れません。皆さん、奮って参加ください。
石村携帯:090-7260-8101

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : 特定非営利活動法人緑のダム北相模:若柳嵐山の森、小原本陣の森

事 務 局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人:NPO法人緑のダム北相模・運営委員会 T&F 03-3411-1636

H P : <http://midorinodam.jp>

E-mail : info@midorinodam.jp

協働団体:神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県央地域県政総合センター)、セブン-イレブンみどりの基金、(財)オイスカ、(株)アルプス技研

ご支援の団体 : 世界自然保護基金japan, イオン財団、神奈川建具協同組合、東急コミニテイ。